

患者さんへ

「サイバーナイフ動体追尾照射における Intrafractional motion error に関する研究」について

神戸低侵襲がん医療センター(以下当院とします)放射線治療科では、当院にてサイバーナイフの動体追尾照射システム(以下本システムとします)による肝腫瘍の放射線治療を実施された患者さんのデータをもとに本システムを用いた治療中の位置照合精度の誤差(Intrafractional motion error)について検討しております。この研究は、本システムを用いた放射線治療の精度の一部を検証するものであり、新規に患者さんへお願いする事はありません。この調査研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

【研究概要】

当院では肝腫瘍に対して体内の腫瘍近傍に目印となる金属マーカーを1個留置し、本システムを用いて放射線治療を施行しております。この金属マーカーは呼吸による腫瘍の動きを認識するものであり、患者さん自身の体の動きやねじれによるズレは腫瘍近傍の椎骨で照合を行っています。この方法は他の施設でも一般的に実施されており、当院でも安全かつ適切に行っておりますが、サイバーナイフは他の放射線治療装置と比べて1回の治療時間が長いため、より最適な治療を行うために治療中の患者さん自身の動きに伴う位置精度の誤差に関して遡及的かつ詳細な検証が必要であると考えています。本研究はすでに本システムを使用して治療を行ったデータを調査、解析するものであり、新規に患者さんに何かをお願いする事はありません。

【取り扱うデータ】

本システムを用いて治療を行った際に撮影される位置照合画像や治療中の治療寝台の位置座標、サイバーナイフの照射位置の情報等がログデータとして自動的にシステムに記録されています。本研究では、これらのデータと治療計画用に撮影されたCT画像データを抽出し、解析いたします。

[個人情報保護の方法]

個人情報、データ等は、正確に尚且つ検証が可能なように記録・保管します。登録患者の同定や照会は、主に登録時に定められた症例登録番号を用いて行われ、患者名など第三者が直接患者を識別できる情報が本試験のデータベースに登録されることはありません。

[研究参加による利益・不利益]

利益・・・本研究により対象患者さん個人には特に利益と考えられることはありませんが、本研究の成果により、今後本システムで治療を行うがん患者さんがより安全に治療を受けることができる可能性があります。

不利益・・・通常の治療の中で自動的に記録されるデータだけを解析するものであるため、特にありません。

[研究参加の取り止めについて]

いつでも可能です。参加を辞退されたい場合には、下記[問い合わせ窓口]までご連絡ください

[研究責任医師（又は研究責任者）]

神戸低侵襲がん医療センター 放射線治療科 医学物理士 中山 雅央

[問い合わせ窓口]

神戸低侵襲がん医療センター 放射線治療科 医学物理士 中山 雅央

連絡先:078-304-4100